

ケニア共和国大使館メッセージ（日本語訳）

ケニア共和国大使館

次席

アーサー・アマヤ・アンダンビ大使

第 34 回創価大学創立者杯

スワヒリ語スピーチコンテスト

2024 年 11 月 24 日

スワヒリ語が世界に与える影響

スワヒリ語はアフリカで、また世界中で、広く知られています。スワヒリ語の発祥は、ソマリアのキスマヨからケニアのモンバサを経てタンザニアのムトワラに至る東アフリカの海岸です。この言語は、アフリカ人とアラブ人の間の貿易の中でできたと言われています。そのため、スワヒリ語の歴史を研究する人々によって、スワヒリ語はバントゥー諸語とアラビア語が組み合わさってできていると言われます。具体的には、スワヒリ語の単語の 60%はバントゥー諸語に、30%はアラビア語に由来していると言われ、残りの 10%はヒンディー語、英語、ポルトガル語などの他の言語からの単語が混ざっています。

スワヒリ語の発展

スワヒリ語を国語として使用している国は、ケニアとタンザニアです。

スワヒリ語は現在、アフリカ大陸において大きく広がってきています。まず、ケニアとタンザニアの隣国がスワヒリ語の発展に取り組んでいます。ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国などがその例です。スワヒリ語は現在、8 か国が加盟する東アフリカ共同体 (EAC) の公用語として認められています。同様に、50 か国以上が加盟するアフリカ連合 (AU) でも、会議での使用言語として認められています。現

在、東アフリカからも離れた多くの国が国民にスワヒリ語の学習を奨励しており、学校で教えている国もあります。ガーナ、南アフリカ、ボツワナ、マラウイ、ザンビアなどがその例です。

アフリカ以外でのスワヒリ語

アフリカ大陸以外でも、スワヒリ語の普及に向けた取り組みが見られます。イギリス、ドイツ、アメリカ、中国、そしてここ日本でも、スワヒリ語は力を持ってきています。これらの国にはスワヒリ語を教える大学や教育機関が数多くあるからです。

参加者の皆さんへ

この機会を利用して、このコンテストに参加するすべての学生を激励し、この活動がスワヒリ語の発展に向けた取り組みにおいて非常に重要であることを述べたいと思います。

私たちスワヒリ語話者は、たくさんの日本の単語がスワヒリ語に似ているのを見つけ、嬉しく思っています。たとえば、カジモト、カミカワ、カマタ、タカハラなど、多くの名前がスワヒリ語に似ており、スワヒリ語で意味を持ちます。このことから、スワヒリ語を愛する私たちは、この重要な言語を学び、発展させようとの心を持つ日本の仲間がいることを誇りに思います。

そしてまた、日本においてスワヒリ語が広まっていくというだけでなく、私たちの国々と日本が関係を築いていくということにおいて、このような取り組みは、皆さんの大きな力になるのだということを参加者の方々に訴えたいと思います。このコンテストに参加している皆さんは、アフリカ、特に東アフリカや中央アフリカのスワヒリ語を話す国々を訪問することができます。滞在中は、通訳を必要とすることなく、これらの国の人々と直接コミュニケーションをとることができます。そうすることで、私たち全員が良い関係を築き、また観光やビジネスといった分野も強化することができるのです。

皆さんの素晴らしい取り組みに心からお祝い申し上げます。皆さんの成功を祈り、これは始まりにすぎないことを期待しています。今後、ここ日本で開催される多くのスワヒリ語のコンテストに、これから何度も招待されることを楽しみにしています。

ありがとうございました。

2024年11月